

煌めく光が織りなす絶景を堪能

# 夜景を観光資源に10年を迎える

# 四日市コンビナート夜景クルーズ

地元を語る座談会で  
工場景観に注目

夜空の下、約30人を乗せた船が千歳桟橋を出港すると、色とりどりに煌めくライトが航走波に反射して、幻想的な風景を生み出します。空気が澄んだ冬の時期はより鮮やかに見え、乗客を非日常の世界に誘います。

四日市で工場夜景に注目が集まつたきっかけは、平成21年に四日市市東京事務所で実施された座談会。東京で活躍する四日市出身者8人が集まり、地元の魅力について語る中で、「赤白のエンツツを見ると、帰つてきたという気持ちになる」という言葉が会話に上りました。

「工場景観が四日市出身者の原風景になつていると知りました」と話すのは、四日市市シティプロモーション部政策推進課の水谷留尉さん。平成19年に発行された写真集『工場萌え』にも四日市の景色が多く取り上げられており、観光資源としての価値に気付いたといいます。

石井哲さん、ライターの大山顕さん、

近年人気が高まっている工場夜景。

四日市にある工場夜景の魅力を最大限に感じられるのが、

平成22年から始まつた「四日市コンビナート夜景クルーズ」です。

ガイドを務めるのは、コンビナート企業OBたち。

豊富な知識で乗客を楽しませています。

建造物景観の研究を行つて八馬智さん（現・千葉工業大学教授）を招き、平成22年1月に座談会を開催。その様子が新聞で報じられました。

官民連携で工場景観を観光資源にする検討を開始し、以前からクルーズを行つていた川崎市を訪ねてその人気ぶりを知りました。

平成23年に第1回が開催された、工場夜景の可能性を探る「全国工場夜景サミット」にも参加し、他市との情報交換にも注力。平成29年度の「第8回全国工場夜景サミット」は、四日市市制施行120周年記念事業として特別開催されました。同年に発足し、現在11都市が加盟する「全国工場夜景都市協議会」にも参加。魅力

発信のための連携を強化しました。

豊富な知識を持つたガイドがコンビナートの歴史を語る

平成22年頃から、四日市商工会議所が八馬さんを招いた講演会「工場夜景サミット」など、行政以外の取り組みも活発になり始めます。石井さん、大山さんの監修で株式会社第一観光の「四日市コンビナート夜景クルーズ試乗会」など、行政以外の取り組みも活発になりました。石井さん、大山さんの監修で株式会社第一観光が運行ルートを設定し、平成22年7月からクルーズの定期運航をスタートさせました。

「四日市コンビナート夜景クルーズ」の特徴は、コンビナート企業OBによるガイドです。ガイドの語

四日市市制施行120周年記念事業として開催した第8回全国工場夜景サミット。現在は11都市が参加しています

info  
四日市コンビナート  
夜景クルーズ  
☎059-327-5377  
(平日10:00~17:00)  
<http://ykyc.jp>



コンビナート語り部の会  
共同代表  
寺本佐利さん



株式会社第一観光  
営業課課長  
久志本昌利さん



夜景クルーズ(60分)を体験!  
乗船時の見どころや、映える写真の撮影スポットを紹介します。

救命胴衣を着けて船に乗り込みます。60分クルーズは通船、90分クルーズでは旅客船を用います。オープンドッキがある旅客船はもちろん、なかなか乗船機会のない通船も赴きがあり魅力的です



第3コンビナートと第2コンビナートの間には、燃料や原料を送る配管橋が架かっています。配管橋をくぐるのはクルーズならでは。真下から見上げるように撮影すると映える写真が撮れるそう



煌めくライトは、鑑賞のためにつけられているのではありません。工場は365日、24時間稼働。船は、各エリアに割り振られた数字を目標に進めます。運がよければ、着岸の様子が見られます



船を降りる前に振り返ると、沖での風景とは異なる港の景色が目に入る。余韻を楽しめます。土日祝の乗船であれば、21時まで開館している展望展示室うみてらす14を訪ねるのもおすすめです

